

■科目名			
幼児理解と教育相談			
Understanding and Counseling on Children			
■開設年度	■区分	■学科名	■分類
2021	幼稚園科目	心理学	
■単位数	■履修期	■履修条件	■開講期
2	6期		後
■担当教員			
島 義弘			
■代表教員名及び連絡先等			
shima@edu.kagoshima-u.ac.jp			
■オフィスアワー			
火曜日の午前中（要予約） 講義中の質問は随時受け付ける			
■講義の概要（目的・内容・方法）			
<p>講義編と演習編で構成される。</p> <p>講義編では幼児理解の意義や理論，方法を学修し，幼児理解から子どもの発達や学びを捉える視点を修得する。この中で，受講者自身が幼児理解のための観察・記録の意義や目的を理解し，目的に応じた観察・記録の基礎的な事項について具体的に例示できるようになることを目指す。加えて，幼児理解を深め，保護者の心情を理解し，寄り添うための基本的な態度としてカウンセリングの理論を学修する。</p> <p>演習編では，幼稚園等で生じるさまざまな事例を通して，幼児のつまずきを当人の問題としてだけでなく，他の幼児や保護者等，種々の関係的，環境的な背景から考察するなど，個の発達を集団との関係の中で捉えることの意義や方法を理解できるようにする。演習編を通して，幼児理解の方法を具体的に理解し，幼児理解に基づいて子どもの発達を理解し子どもや保護者に寄り添う，保育者・教育者としての基本的な姿勢と技術の修得を目指す。</p>			
■授業の到達目標及びテーマ			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児理解の意義，理論と方法について説明することができる</li> <li>2. 幼児理解から子どもの発達や学びを捉える原理を説明することができる</li> <li>3. 幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度を説明することができる</li> <li>4. 保護者の心情と基礎的な対応の方法を説明することができる</li> </ol>			
■授業計画			
<p>授業はすべて，対面で実施する予定である。</p> <p>第I部：講義編</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. カウンセリング・マインド</li> <li>2. カウンセリングの理論と技法</li> <li>3. 発達の理論</li> <li>4. 子どもの発達</li> <li>5. 発達理解の方法と子育て支援</li> <li>6. 気になる子ども，発達障害</li> <li>7. 一般的な保育上の相談</li> </ol> <p>第II部：演習編</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>8. 保育参観</li> <li>9. 保育参観の振り返り</li> <li>10. 子ども同士の問題への対応</li> <li>11. 子ども同士の問題についての親への対応</li> <li>12. 不登校（園）</li> <li>13. 虐待が疑われるケース</li> <li>14. 「気になる子」への対応</li> <li>15. 保護者からの相談</li> </ol>			
■授業外学習（予習・復習）			
【予習】事前レポートを作成する（学修に係る標準時間は約2時間）			
【復習】事後レポートを作成する（学修に係る標準時間は約2時間）			

■受講要件

■成績の評価基準

事前レポート：30%  
 事後レポート：30%  
 保育参観レポート：10%  
 中間レポート：10%  
 期末レポート：10%  
 授業への積極的参加（関心・意欲・態度）：10%  
 ※事前レポート・事後レポートの不提出が3回を超える場合、中間・期末レポートが期限内に提出されない場合は評価の対象としない。

■教科書・参考書

教科書：使用しない  
 参考書  
 『幼稚園教育要領解説』  
 『新時代の保育双書 子どもの理解と保育・教育相談』 小田豊・秋田喜代美（編） みらい  
 『子どもの理解と支援のための発達アセスメント』 本郷一夫（編） 有斐閣選書  
 『改訂新版 保育カウンセリングへの招待』 富田久枝・杉原一昭（編著） 北大路書房

■教師としての資質能力に関するチェック項目

7. コミュニケーション力  
 【B連携協働力、自己改善力の育成】他者とのかかわりや適切なコミュニケーションの在り方について基本的な理解を深め、自らそれを実践することができる
8. 自己改善力  
 【B連携協働力、自己改善力の育成】自らの課題を発見し、解決に向けた具体的な方法を企画・実践するとともに、結果を省察して改善につなげることができる
9. 学習者の心理・発達に関する理解  
 【C学習者理解】子どもの発達や心理など、子ども理解のための基礎的な知識を身に付けており、それらを生かして子どもの発達を分析することができる
10. カウンセリングに関する理解  
 【C学習者理解】カウンセリングや教育相談についての基礎的な知識を身に付けており、それらの知識を学習者理解に活かすことができる
13. 生徒指導に関する構想力  
 【D構想力、展開力、評価力等】個々人の発達課題の把握や問題行動及びその対応等の理解を深めるとともに、積極的な生徒指導の在り方について構想することができる

アクティブ・ラーニング

グループ・ディスカッション；  
 振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

■実務経験のある教員による実践的授業

■その他

1. 附属幼稚園の保育を参観するため、土曜日に授業（補講）を行うことがある。
2. 授業計画には多少の変更があり得る。
3. 受講者数とCOVID-19の状況によっては、遠隔授業とすることもあり得る。
4. 提出されたレポートは、全て公開する。